



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

おいでだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 014

2024 Spring

★ CONTENTS

- 02 「肺がんセンター」を新設しました
- 03 医薬基盤研・大阪国際がんセンター共同研究キックオフセミナーを開催しました
- 04 第1回「一緒に体を動かそう！ フレイル予防の会」を開催しました！
- 05 センター内のアート作品を入れ替えました
- 05 外来エレベーターの案内表示をリニューアルしました
- 06 チーム医療・学術活動のご紹介（ホームページ）
- 06 インターネットによる初診お申し込みのご紹介
- 07 大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 寄付者ご芳名
- 08 ご寄付のお願い



肺がんセンターを新設しました

2024年
4月1日

肺がん（の疑い）と言われた方、あるいはご家族・親しい方が
肺がん（の疑い）と言われた方へ

どんな検査を受けるのか？ どんな治療が良いのか？ 自分（あるいはご家族や親しい方）は今後どうなってしまうのか？ と不安な気持ちでお過ごしのことと思います。ひょっとすると、「肺がんは、難しい病気、治らない病気」と思っているかもしれません。決してそんなことはありません。当センターでは、多くの方が肺がん向き合い、検査、治療を受け、そして同時にそれぞれの生活を過ごしていらっしゃいます。

さまざまな医療の進歩により、早期の肺がんは手術などにより高い確率で治りますし、また進行した肺がんであっても、治療しながらご自身の日々の生活を送っていくことができる病気になってきています。

あなたの病気が肺がんであった場合、どんな治療が一番良いのでしょうか。治療からできるだけスムーズに回復するために、あるいは治療中に起こったいろいろなお困りごとに対応したらいのでしょうか。検査や治療に追われるばかりでなく、尊厳をもって安心して生活できるようにするにはどうしたら良いのでしょうか。このような患者さんの抱えている問題に、さまざまな診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士など多くの職種が協力して対応することを目的として肺がんセンターを開設しました。

治療の特色

毎週、呼吸器外科、呼吸器内科、放射線腫瘍科、放射線診断・IVR科による肺がんカンサーボードを行い、患者さんの肺がんの種類、病期分類、合併症、治療に対するご希望などについて詳細に検討し、今後の検査や治療方針について決定しています。今後の診療に役立つために、病理勉強会などを行い研鑽や診療技能の向上に努めています。当センターの肺がん治療成績は全国がんセンター協議会の生存率協同調査報告*において、全国のトップクラスの治療成績を示しました。肺がんセンターを設立し、われわれの治療をより多くの患者さんに提供できるよう努めるとともに、さらなる治療成績の向上を目指しています。



★全国がんセンター協議会の生存率協同調査報告
<https://www.zengankyo.ncc.go.jp/etc/index.html>



「肺がんセンター」ホームページ
<https://oici.jp/hospital/department/haigancenter/>



医薬基盤研・大阪国際がんセンター 共同研究キックオフセミナーを開催しました

令和6年1月18日、当センター1階大講堂にて「医薬基盤研・大阪国際がんセンター共同研究キックオフセミナー」を当センター職員向けに開催しました。当センターは、令和4年10月14日に「健康長寿社会」に向け、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました。連携協定の目的は、**新規のがん診断・治療・予防法の開発、生活の質（QOL）向上に向けた保健・栄養指導等の開発**です。

具体的な取り組み内容としては、最先端のがん医療やがんサバイバーの支援などに向けて、研究成果や臨床情報の共有や、定例会議での意見交換、共同研究などを行っています。

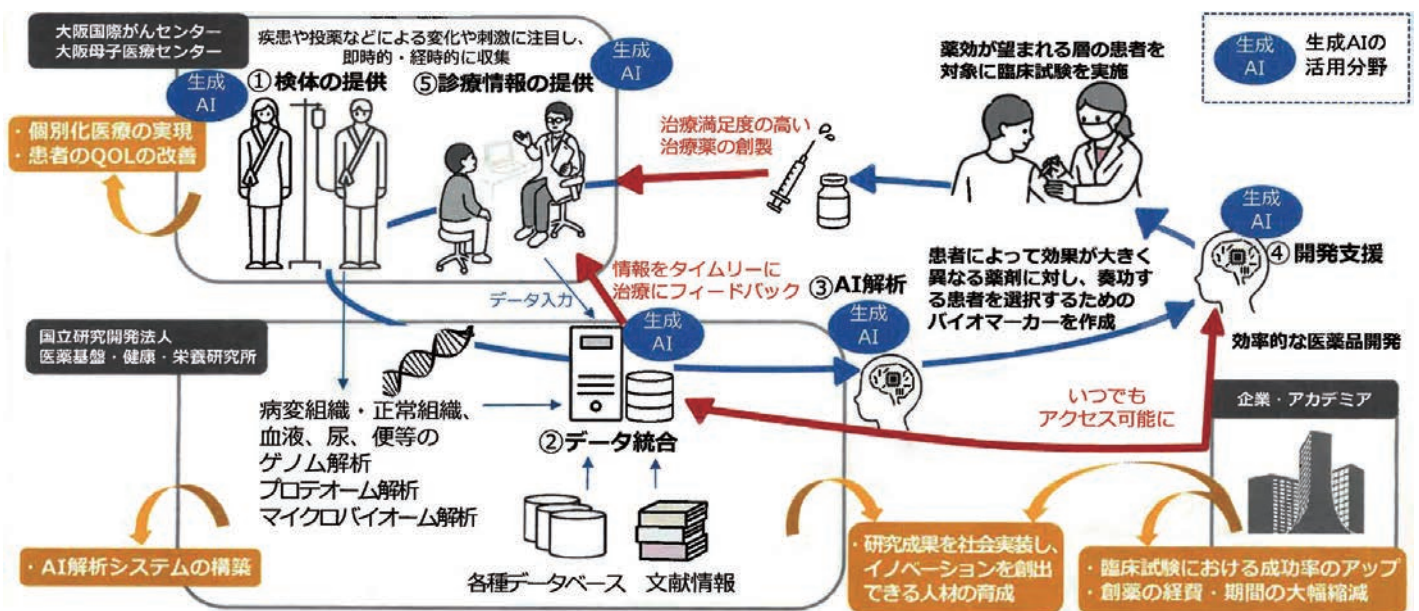
このたび、AI ホスピタルの構想を実現するため、令和6年1月から令和7年3月にかけて共同研究を実施することになりました。ぜひ、本研究を成功させて、がん診療のモデルを作りたいと思います。

共同プロジェクト

1. 患者からの研究用の同意取得
2. がん組織の利用のための同意書作成
3. 問診や抗がん剤事前聞き取りのための説明文書
4. 書類や文書作成のためのシステム構築
5. 看護記録自動化に向けた取り組み

生成 AI を活用した患者還元型・臨床志向型の循環システム



第1回 「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催しました！

看護部

2024年2月14日に入院患者さんを対象に「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催させていただきました。

当センターでは、看護部とリハビリテーション科が協働し「栄養と運動、フレイル予防」に取り組んでおります。今回、患者交流棟のルネサンス運動支援センターのご協力のもと『大阪国際がんセンター認定 がん専門運動指導士』※による椅子に座ったままできる運動を患者さんと一緒に行いました。

運動は、がん患者さんのQOL（生活の質）の向上に有効で、治療を継続していくためにはフレイル予防が重要です。

入院中はどうしても活動量が低下してしまいます。患者さんが気軽に参加でき、「これなら自分でもできそう」と感じてもらえることを大切にプログラムしました。ご参加いただいた患者さんには、笑顔で、ご自分のペース

で運動していただくことができ、「楽しかった」「少しずつでも続けたい」とのお声も頂きました。

今後も『栄養と運動』を通して、患者さんの生きる力を支えるための活動に取り組んでまいりたいと思います。

※ がんの病態や治療に関する基礎知識に加えて、患者さんの苦痛や悩みをよく理解した上で、がん患者さんのQOL向上に必要な運動の知識・技術を習得する、大阪国際がんセンターが監修したカリキュラムに基づきルネサンスが認定する民間資格



リハビリテーション科

フレイルという言葉をご存じですか？フレイルとは『虚弱』を意味し、加齢により心身が衰えたり、活動的ではなくなったりする状態を示す言葉です。

加齢に伴い身体機能が低下することは生きていく以上、回避できませんが、運動不足や外出頻度の低下など活動量が減少すると体や精神的な衰えが助長されます。また、海外のがん患者さんの研究では、胃がん術後の患者さんの57%、化学療法中の肝がん患者さんの27%に筋力や筋肉量の低下があったとの報告もあります。

フレイルがあると転倒や自立生活が困難になるなど、介護が必要な状態になる危険性が高くなります。これを予防するためにも可能な限り身体活動を維持、向上させていくことが望ましいです。

2019年に示された日本人を対象とした日常の身体活動の違いによるフレイル発生のリスクを検討した研究をご紹介します。

1日の歩数が5,000歩以上の方とそれ未満の方を比べた結果、1日あたり5,000歩以上歩いている方がフレイルに陥るリスクが半分程度まで低下すると報告されています。

日常的な運動や身体活動が重要なことがうかがえますね。

ちなみに、運動だけではエネルギーを消耗させてしまい、筋肉がつくことはありませんので、日常的な栄養補給も忘れずに心掛けるようにしましょう。

ルネサンス運動支援センター

「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」に、ご参加の皆さまありがとうございました。

入院中や治療中に起きやすい体力低下や筋力低下を防ぐための「動きやすいカラダをつくる運動」と「筋力をつける運動」を行いました。個々の体の状態に合わせて無理なくできる動きを選んでいただきながら、椅子に座ってできる運動をご紹介します。皆さま、はじめは少し緊張されていた様子でしたが、後半になるにつれて表情もほぐれ、動くことを楽しんでおられることが伝わってきました。運動することで体も心も楽になる、みんなと動くことでリフレッシュできる、そんな時間を楽しんでいただけたのかなと思います。運動を継続していただけるよう運動の動画や資料もお渡ししました。

頑張り過ぎず、毎日少しでも「できることから始めること」と「楽しみながら続けること」が体力づくりのポイントです。今回のイベントを機に、動く事を楽しんでいただけたらと思います。

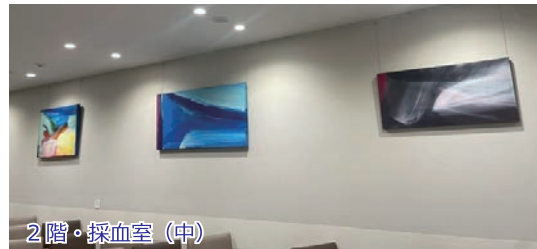


無理なくマイペースで楽しんで♪

センター内のアート作品を入れ替えました

当センターでは患者さんの視点に立ったサービスの提供の一環で、癒し（精神的ストレス軽減）となる環境を整えています。

その中で“アートな病院”を目指し、大阪府の協力の下、以前に公募し選ばれた絵画や『大阪府 20 世紀美術コレクション』のアート作品 106 点を外来および病棟の廊下（特別病室および人間ドックは各部屋 1 点ずつ展示）など多くの場所に展示しています。



空間ごとにコンセプトを設定し、大小さまざまな絵画や写真を展示しておりバラエティに富んでいます。例えば、多くの方が来訪する2階および3階の外来には「アートストリート」を設け、主要な作家のアート作品を多数展示しています。診察の待ち時間などにぜひご覧ください。

外来エレベーターの案内表示をリニューアルしました

当センターにおいて、患者さんやご家族よりエレベーターの場所をお尋ねいただくことがございます。そこで、サービス企画推進部では、利便性などの観点からさまざまな検討を重ねました結果、案内表示をリニューアルしました。

外来フロア（地下1階～3階）には、中央のエスカレーターの他、エレベーターが各階にございますので、ぜひご利用くださいませ。



チーム医療・学術活動のご紹介（ホームページ）

チーム医療について

当センターでは、多職種が患者さんと共にごん治療に向き合う一つのチームとなり、ごん治療から生じるさまざまな身体症状や不安に対応し、専門性を生かした指導や治療方針の決定を支援しています。

また、「臍ごん教室」や「スキンケア教室」、「糖尿病教室」などを開催しており、治療に伴うお悩みや日々の生活の助けになるようなアドバイスも行っております。

これらの情報を知っていただくため、チーム医療をご紹介しますページを当センターホームページ上で公開いたしました。トップページ下部のパネル「チーム医療」よりご覧いただけます。



「チーム医療」

学術活動について

当センターは、ごんを専門にする医療機関として、「患者の視点に立脚した高度なごん医療の提供と開発」の理念の基にごん医療に取り組んでいます。現在最善と考えられる高度医療を提供するだけでなく、将来の治療成績の向上を目指して、新たなごん医療の開発にも尽力しています。

そのため研究にも力を入れ、研究成果を多くの英文論文として世界に発信しています。その中から、高い評価を受けている雑誌に掲載された論文の一部を、当センターホームページ上でご紹介しています。



「英語論文（筆頭著者）の実績」

インターネットによる初診お申し込みのご紹介

当センターでは、インターネットによる初診お申し込みが可能です。オンラインにて24時間受け付けておりますので、以下の診療科をご希望の方は、ぜひご利用ください。

当センターホームページ上で、トップページ上部にございますスライダ（画像が横向きに流れるスライドショー）、もしくは、トップページ中央にございます「初診申し込み」という部分のリンクボタン「インターネットから」よりお申し込みいただけます。



お申し込みフォームのご入力のみでは、予約の完了とはなりません。
お申し込み内容を確認後、翌々営業日までに、担当者からご指定の電話番号にお電話させていただきますのでご了承ください。



●対象診療科

外科系 ※手術を受けられる方対象

消化器外科（食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科）
／呼吸器外科／乳腺・内分泌外科／脳神経外科／整形外科
／婦人科／泌尿器科／腫瘍皮膚科／頭頸部外科

内科系

消化管内科／肝胆膵内科／呼吸器内科／血液内科／
腫瘍内科

インターネットによる 初診お申し込みについて



お申し込みフォーム（ご入力）



大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い

当センターは、大手前への移転から10年を迎える2026年度以降、放射線治療装置や手術支援ロボットといった大型医療機器の更新時期を迎えます。

これからも、患者さんへ安全で質の高いがん医療を提供し続けていくには、最先端技術を備えた医療機器の充実が欠かせませんが、これらの医療機器の購入には多額の経費が必要となりますので、皆さまからのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

Web サイトからの
お手続き

[ご寄付のページ](https://oici.jp/center/effort/donation/ogatairyokiki/)よりお申込みください

<https://oici.jp/center/effort/donation/ogatairyokiki/>

センター内での
お手続き

担当者が伺いますので、総合案内または
お近くのスタッフへお声掛けください。

ご郵送・FAXでの
お手続き

[ご寄付のページ](#)の「お申込み方法はこちら」より「寄付申込書」をダウンロード
していただき、必要事項をご記入の上お送りください。

皆さまからの
温かいご支援を心より
お待ちしております。

〔郵送先〕 〒541-8567 大阪府中央区大手前3丁目1番69号
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
総務・広報グループ 寄付担当者宛

〔FAX番号〕 06-6945-1900

[ご寄付のページ](#)



はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

【file 014】

がん情報コーナーを拡充しています！

がん相談支援センターの受付は病院一階、正面玄関
に入って右手の自動ドアを越えた所にあります。その
受付前のスペースに「がん情報コーナー」を設けてお
り、国立がん研究センター発行の各がん種の冊子、治
療や療養に役立つ各種小冊子、自治体ごとに実施され
ているウィッグなどの購入費用助成のパンフレット、
患者さん・ご家族向けのセミナーや患者会・患者サロ
ンの開催チラシを配架しています。このラックを増設
して、皆さまにさらに多くの情報をお届けできるよう「**が
ん情報コーナー**」を拡充しました。

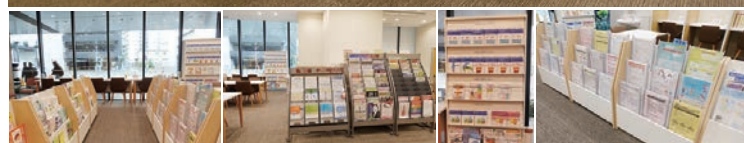
また、コロナ禍で長期閉鎖していた、がん関連図書
の閲覧・貸し出しをする「書籍コーナー」も再開予定
(当面は閲覧のみ)で、現在、各がん種の診療ガイド
ラインなどを最新版に更新すべく入れ替えを進めてい
ます。

昨年の世論調査でも多くの方が「がんは怖い病気」
と回答しています。正確な情報は力になります。あな
たに合った情報を探してみてください。

がん情報コーナー

【ご利用時間】 9:00～17:00 (土日祝・年末年始を除く)

*ご飲食や携帯電話での通話はご遠慮ください



ご寄付について

寄付者ご芳名 2024年1月1日～2月29日

受領日順／ご希望者のみ掲載

小島 弘三様、佐野 桂子様、山本 博史様、有吉 睦子様、野口 茂様、奥田 崇善様、
奥田 春寿様、井上 善雄様、松元 博樹様、大谷 祐子様、竹野 剛史様、酒井 眞弓様、
シード建設株式会社 代表取締役 種 啓二様 他

匿名者 12名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い
医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。

●●●● Web サイトからのお手続きも可能です ●●●●

従来の申込方法に加え Web サイトからでもご寄付のお申込みを受け付けております。
クレジットカード、Google Pay、Apple Pay (1回あたり100万円まで)、銀行振込
によりご寄付いただくことが可能です。



OIC | だより 2024年春号〈季刊〉

特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター
編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567
大阪市中央区大手前 3-1-69
TEL.06-6945-1181 (代表)

2024年4月発行



- ◆電車でご来院の場合
Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 /
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分
- ◆お車でご来院の場合
東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分

ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



[@oici.jp](https://www.facebook.com/oici.jp)

ライン



<https://lin.ee/Z0cDHhU>

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。